

グループホーム建設と新聞報道

2018年5月、ゴールデンウィーク前の頃だったと思う。伊勢新聞の記者がまぐのりあの理事長を追いかけているという噂がどこからか聞こえてきた。前年末にグループホーム建設のための用地を取得し、3月に造成工事を終えた頃だった。グループホーム建設のためにNPO法人を起ち上げているとはいえ、建設までには、設計事務所や建設業者を決定するための入札の準備、グループホームの間取りや必要な設備、入居者や職員の募集も考えなければならない頃だった。障がいを持つ子どもたちの親が中心となってNPO法人を設立したが、設計や建設のこととなると素人同然の集団だった。

私たちは連日のように会議や各関係機関との打ち合わせに追われていた。しかし、打ち合わせをするための決まった場所があるわけでもなく、役員宅を転々としていたし、役員間や関係先への連絡もそれぞれの携帯電話を頼りにしていたのだった。そして、建設のための用地を確保したものの、設計事務所や建設業者のこと、建設に伴う資金などを考えると頓挫することもあるかもしれないとの思いもあった。だから、記者が理事長を追いかけているとはいえ、グループホームの建設を発表することには躊躇もしていた。一方で、親の思いや障がいを持つ人の暮らしのことなどは話したいとも思っていた。それにしても、このような状態の組織体だったから、掴まえるのが大変だっただろう。

そして、会うことにした。私たちは公表するには躊躇していたから、建設についての具体的な話は意識的に避けていたつもりだが、障がいを持つ子どもたちの成人後の暮らしについてはずいぶんと話したように思う。

多分、私たちは、

- ・親亡き後の心配しているよりも、親が元気なうちに障がいを持つ子どもたちが、安心して暮らしている様子を見たいこと。
- ・今までのような施設や兄弟姉妹の保護によるものではなく、小規模のグループホームで助け合って暮らしてほしいこと。
- ・熱意を持った支援者によって必要な支援を受けたいこと。
- ・地域との繋がりが孤立するのではなく、一方的な保護による支援でもないこと。
- ・障がい者自身の意思が尊重された生き方を願っていること。等々。

思っている沢山のことを話したように思う。記者の取材力もプロ意識を感じさせるもので、いつの間にか記事ができていた。私たちは、「公表してもいいかな。」と言う気持ちになった。私たちは、尾鷲市に本社をおく2紙（紀勢新聞社、南海日々新聞社）とともに、取材を受けることにした。そして、各紙に掲載された。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

2019年3月、グループホームが完成し、4月には「和家」として事業を開始した。グループホームの完成と事業の開始を伝えてほしく各新聞社に連絡をしたのだが・・・伊勢新聞の記者は尾鷲の地を離れ他所に赴任していた。

2023年4月、事業開始から4年が過ぎた。グループホームができたことで私たちの目標が達成されたとは思っていない。「地域で普通に暮らす」ための新しい課題も見えてきている。もう一度、「和家」のリビングで話し合ってみたいと思う・・・。

あのときの記者さんは、今頃は何処の街で駆け回っているのだろうか？このホームページが目にとまるだろうか？

(NPO法人まぐのりあ 編集担当)

障害者の保護者が グループホーム

尾鷲で設立目指す

来年4月
開所予定



グループホームの運営について話し合うまぐのメンバー＝尾鷲市で

重度でも親元離れ自立へ

【尾鷲】障害のある子どもを持つ親と福祉関係者らでつくる尾鷲市北浦町のNPO「まぐのりあ」は、重度の障害者が安心して暮らせるグループホーム「和家（わや・仮称）」の設立を目指している。同市向井に土地を購入し、来年四月に開所予定。地元で暮らしたい人たちの受け皿として期待される。

同市と紀北町に障害者グループホームは三方所あるが、保護者が手掛けるのは初めて。重度、重複障害者が親元を離れて自立し、親以外の支援員と一緒に家庭的な環境で過ごせるようにする。共同生活する住居で相談や日常生活を援助。介護などが必要と認定されている場合は入浴、排せつ、食事の介護サービスを提供する。

高台の六百六十平方メートル、木造平屋建て約二百十平方



グループホームの予定地
＝尾鷲市向井で

自分でもグループホームをつくるしかなかった」と語る。「生まれ育った尾鷲で暮らしてほしい」という思いから、平成二十八年十月に「グループホームを作る会」を立ち上げ、二十九年八月にNPOを設立した。「まぐのりあ」はモクレンを意味し、「毎日の一歩一歩を大切に花を咲かせていけるように」という気持ちを込めた。

一部屋の個室やリビング、食堂、キッチンを設ける。夜間は支援員が常駐する。伊藤久子理事長（前）は知的・身体障害のある長男大地さん（二）と暮らしている。大地さんは特別支援学校東紀州くろしお学園を卒業し、現在はNPO「あいあい」（同市矢野で空き缶やペットボトルのリサイクル作業に励んでいるが、これまで何度も他の施設で入所を断られてきたという。伊藤さんは「私が死んだ後も生きていけるように、

問い合わせは尾鷲さん＝電話090（58860）7878へ。（越前浩子）

障害者グループホーム

向井に建設へ 保護者らのNPO法人

尾鷲市と紀北町の障害者の保護者有志や福祉関係者らでつくるNPO法人「まぐのりあ」(尾鷲市北浦町1の8、伊藤久子理事



障害者グループホームの建設用地(尾鷲市向井で)

長)が同市向井に障害者グループホーム「和家」(仮称・わや)を建設する。紀北地区で保護者を中心となつて建設する障害者グ

ループホームは初めて。建設用地は昨年11月に水田跡約1500平方メートルを購入、うち660平方メートルを造成した。6月ごろには入札で木

造平屋建て210平方メートルの施設建設に着手、来年3月までに完成させ、4月の開設を目指している。

法人名の「まぐのりあ」はモクレンの総称。仏教では祝福のシンボルとされており、グループホームは障害者一人一人の生活を大切に「暮らしの場」を目指す思いを込めた。

対象は身体、知的、精神障害者で障害の程度を問わず定員5人。部屋は冷暖房完備の6畳ほどの個室と共同のトイレ、浴室、洗面所、リビング、食堂、キッチン、宿直室など。建設費は未定だが、県・市のグループホーム緊急整備事業補

助金1500万円を受ける。不足分は保護者の出資や一般の寄付で賄う。運営は施設長やサービスマネージャー、日常生活支援スタッフなど8~10人。運営費は入居者の家賃と障害者総合支援法に基づく福祉サービス支援費などを充てる。

法人名の「まぐのりあ」はモクレンの総称。仏教では祝福のシンボルとされており、グループホームは障害者一人一人の生活を大切に「暮らしの場」を目指す思いを込めた。

NPO法人は保護者の「グループホームをつくる会」を経て、昨年8月に保護者や元紀北作業所長など有志で設立。役員は11人。理事で事務局長の湯

浅正悟さん(66)はい思いがグループホーム建設の原動力になった」と話した。

「まぐのりあ」では建設や運営の寄付、運営協力への賛助会員(1口千円)を募集している。賛助会員は障害者の社会参加などを進めるアイデアを出すなどボランティアで運営を支える。

問い合わせは湯浅事務局長(090-5860-7878)へ。

理事で事務局長の湯

浅正悟さん(66)はい思いがグループホーム建設の原動力になった」と話した。

「まぐのりあ」では建設や運営の寄付、運営協力への賛助会員(1口千円)を募集している。賛助会員は障害者の社会参加などを進めるアイデアを出すなどボランティアで運営を支える。

問い合わせは湯浅事務局長(090-5860-7878)へ。

重度障害者の生活自立に

保護者ら 向井にグループホーム建設

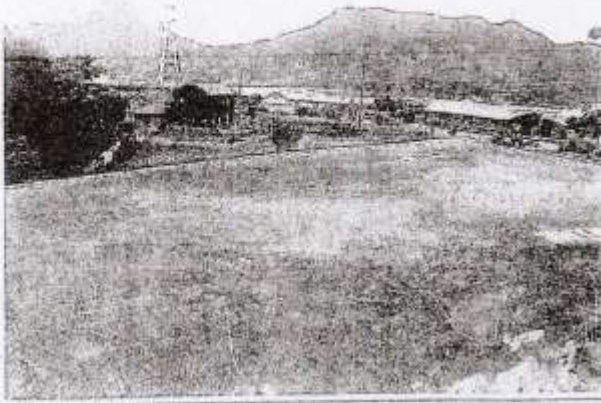
重度障害者のためのグループホームが尾鷲市向井に建設される。障害者の保護者を中心となってNPO法人を設立し、用地を取得して4月までに造成工事を終えた。本体は8月ごろ着工し、遅くとも来年4月の入居を目指す。

「まぐのりあ」(伊藤久子理事長)が子の将来を考えた保護者たちが、地域の人達と力を合わせて、必要と立ち上がり、福祉関係者や住民に呼び掛

「まぐのりあ」はモクレンの花の名前。建設用地は向井小学校の北隣で、海抜約40メートルの高台。民有地1700平方メートルを取得したが、このうち約600平方メートルを造成した。ここに約230平方メートルの木造平屋建てを建設する。

多人数での集団生活の場ではなく、入居定員5人の少人数で、一人一人の生活を尊重し、プライバシーを守ることを方針にしている。入居者の数は6名。浴室、トイレ、洗面所、リビング、食卓、キッチンが共同スペースとなる。

平日の朝間は紙おむすび施設、生活介護事業所などに通所することを基本としているので、帰宅時から翌日の施設開始までがホームでの生活になる。障害の分類を問わず入居でき、家賃は障害者半金で賄える範囲内に設定する。スタッフはサービス監



向井の高台に確保した障害者グループホームの建設用地

が必須と立ち上がり、福祉関係者や住民に呼び掛けて平成28年10月に準備会を結成。昨年8月に施設を建設、運営するNPO

法人を設立した。「まぐのりあ」はモクレンの花の名前。建設用地は向井小学校の北隣で、海抜約40メートルの高台に確保した。

「まぐのりあ」はモクレンの花の名前。建設用地は向井小学校の北隣で、海抜約40メートルの高台に確保した。

「まぐのりあ」はモクレンの花の名前。建設用地は向井小学校の北隣で、海抜約40メートルの高台に確保した。

「まぐのりあ」はモクレンの花の名前。建設用地は向井小学校の北隣で、海抜約40メートルの高台に確保した。

「まぐのりあ」はモクレンの花の名前。建設用地は向井小学校の北隣で、海抜約40メートルの高台に確保した。

「まぐのりあ」はモクレンの花の名前。建設用地は向井小学校の北隣で、海抜約40メートルの高台に確保した。

「まぐのりあ」はモクレンの花の名前。建設用地は向井小学校の北隣で、海抜約40メートルの高台に確保した。